



## トップダウンとボトムアップ

今年度最後の校長室だよりです。今年も、コロナに振り回された1年でした。3学期も「まん延防止等重点措置」の実施とその延長で、卒業遠足こそ実施できましたが、予定していた最後の学習参観や、全部のPTA親子ふれあいもできなくなってしまいました。保護者の皆さんには、今年何回学校にお越しいただけただろうと振り返ると、開かれた学校を目指しながらも、ずっと閉ざしつぱなしの学校だったという印象で、本当に申し訳ないです。

しかし、そんな中でも子どもたちはこの1年でずいぶん成長してくれました。例えば1年生。先日、研究授業を参観したのですが、実にしっかりした発表をしていました。しかも、発表した子どもたちだけでなく、観ている子どもたちが発表している友だちをサポートしていく、とても温かい気持ちになりました。もともと、1年生の伸びは、小学校の各学年の中でも著しいものがありますが、国語や算数での読み書き・計算などの学力だけでなく、自分たちで表現するようなプロデュース力も身につけ始めていることに、ものすごく成長を感じました。

また、卒業間近の6年生は、今年になってからの様々な場面での<sup>たくま</sup>遅しさに、さすがだなと思いました。立場が人を育てるという言葉がありますが、まさにその通りです。この1年間で、堀江小学校を支える立派な屋台骨と言えるまで成長してくれました。本当にうれしい限りです。今の5年生が、その流れを受け継いでくれることを願っています。

ところで、トップダウンとボトムアップという言葉をご存じでしょうか。ビジネス用語として、上意下達と下意上達などと訳されますが、この言葉を当てはめて子どもの成長を見る考え方があります。トップダウンの見方は、<sup>かか</sup>げた目標から見下ろして、子どもがどこまで到達してきたかという考え方です。一方、ボトムアップの見方は、今あるところからどこまで積み上げて伸びたかという考え方です。どちらも子どもが成長する姿を見ているのですが、トップダウンの見方だけだと、目標に届かなければ、足りないところばかりに目が行ってしまいます。しかし、ボトムアップの考え方で見ると、どれだけ頑張ったかという努力や経過の部分にも目が行って、子どもの成長をしっかりと感じることができます。私たち大人は、この1年間の子どもたちの歩みを振り返る時、ぜひ、「何ができるようになったか」だけでなく、「何を頑張ったか」にも目を向けていきたいものです。

でも、できることも頑張ったことも見つ  
からなかった時はどうすれば良いのでし  
ょうか。そんな時は、「どう変わったか」で  
もかまわないと思います。この1年間、ど  
の子にも変化があったはずです。もし、  
今はマイナスな変化しかなかったように



思えても、それは成長の過程においてその子にとって必要な事なのかも知れません。また、たとえ立ち止まつたままに見えても、それはさなぎのように、これから羽ばたく力を蓄えているのかも知れません。ですから、今の子どもたちの姿をそのまま受け止めて、今年1年間の成長と捉えられたらしいなと思います。

しかし、一番大切なのは、大人の評価ではなく、この1年間で自分ができるようになったことや頑張ったことが何かを、子ども自身が感じられることです。そうした中で作られる自信や充実感こそが、子どもを成長させるもととなるのではないかでしょうか。そして、次の1年間でさらにどんな力を積み上げていくのか、楽しみにしましょう。

最後になりましたが、この1年間、ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

## 来年度の土曜授業について

これまで年3回あった土曜授業ですが、来年度からは実施について学校が判断することになりました。学校で検討した結果、現在は夏休みが短縮されて授業時数が十分確保されていることから、次年度は代休日のない土曜授業は原則実施しないことにしました。(ただし、臨時休業等で授業時数が不足した場合を除きます。)

私が子どもの頃は、土曜日と言えば、午前中に学校で授業があって、家に帰ってお昼ご飯を食べながら新喜劇を見るというのが定番でした。しかし、今から30年前に第2土曜日が休業日になり、その後、第4土曜日の休業が加わって、2002年から土曜日はすべて休業日になりました。

土曜日が休業日になったのは、労働基準法の改正で週休2日制となった事が背景にあります。しかし、その後、「脱ゆとり教育」の影響で授業時数の増加が求められるようになり、土曜日の授業が復活したのです。

文部科学省は、土曜日を休業にする事について、「学校、家庭、地域社会の役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会体験や自然体験などの様々な活動の機会を子どもたちに提供し、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの『生きる力』をはぐくむこと」をねらいとしています。実施当初は、土曜日に子どもたちが過ごす受け皿の整備について議論がありましたが、20年もたつとずいぶんそれも整い、土曜日の学校休業は当たり前になっています。実際、土曜授業をすると、習い事や用事を理由に通常よりも欠席する子が多いです。そうした事からも、単に授業時数の増加のためだけの土曜授業はしない事にしました。

私としては、土曜日に授業をするよりも、夏休みをあと2週間ほど短縮して、そこで確保した授業数を振り分ければ、平日の授業時数が少なくなって、毎日にもっとゆとりが出るのではないかと思います。しかし、学期の期間設定は教育委員会が決めることなので、私に決めることはできません。それよりも、これ以上夏休みを短くすると、子どもたちから怒られそうな気もします…。

